

国立大学法人室蘭工業大学の平成23年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

室蘭工業大学は、国際的通用性をもった科学技術者の育成、科学技術分野における知の創造、社会を先導する科学技術に関する教育研究を推進し、学術研究成果を積極的に発信することによる地域発展への貢献を目指している。第2期中期目標期間においては、柔軟な研究領域を組織し、特色ある研究の展開と特定分野における研究の高度化を推進すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、研究活動の活性化に資するため、室蘭工業大学若手研究者海外派遣事業を新たに設け、教員2名を海外に派遣しているなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成23年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 市民懇談会において、学外委員から「農業の生産性を高めるための大学研究成果の活用」の意見を受け、伊達市の植物工場への技術的支援、近隣自治体における地域産業の振興及び地域企業との共同研究の企画、推進を図るとともに、北海道職員1名を特認教員として受け入れることを決定している。また、産学官連携、知的財産、教育社会連携の3部門を統括した「社会連携統括本部」を設置し、教員が主体的に参画した社会連携推進体制を整備している。

【評定】 中期計画の達成に向けて**順調**に進んでいる

(理由) 年度計画の記載24事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

平成23年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 総人件費改革を踏まえた人件費削減については、平成 18 年度からの 6 年間で 6 % 以上の削減が図られている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 10 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守、④情報化)

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 女子学生の修学を生活面、経済面から支援するとともに、女子志願者を確保することを目的として、これまでの留学生宿舎を改修して女子寮を新設し、平成 23 年 10 月から運用を開始し、年度途中にも関わらず 16 名が入居しているほか、女子志願者数も増加している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 10 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 「『ムロランマテリアルズ』創成教育プログラム」による教育の活性化に取り組み、その一環として、平成 24 年度から大学院工学研究科博士前期課程に「先進マテリアル工学教育プログラム」を開設することを決定している。
- これまでに推進してきた「専門性を活かして社会の要請に応える人材の育成」の教育プログラムに加え、就職活動期に向けて、学部 3 年次後半までに学生が「自立的に

職業を選択できること」を目的に、活動を体系的に実施するためのキャリア教育を推進している。

- 入学者選抜方法検討業務、入試広報業務の恒常的な改善及び高大連携の推進強化を目的としてアドミッションオフィスを設置し、高等学校の校長を務めた専任教員を配置し、多様な入試方法に対応した入学期の学習を支援するための検討を行い、新たな入学前教育教材の導入を決定している。
- 大学が重点的に取り組む特定分野のうち、新産業創出分野として推進した3プロジェクトについて、研究成果に基づくヒアリングを踏まえて評価を行い、「希土類に関連した再生可能エネルギー材料科学およびサステイナブル材料開発」プロジェクトを重点的に推進することを決定している。
- 大学における研究活動のグローバル化はもとより、高等教育の国際市場化、大学卒業生雇用の国際化が進む中で、大学の国際交流の基本的な考え方を示し、教職員活動、施策立案の指針とするため、「室蘭工業大学国際交流ポリシー」を制定している。
- これまで医工連携や感性デザインに関する共同研究を実施してきた公立はこだて未来大学と学術交流に関する協定を締結している。

Ⅲ. 東日本大震災への対応

- こころのケア活動のため、被災地で支援活動に携わった教員を講師として、一般市民等を対象に「東日本大震災への支援活動」をテーマに講演会を開催している。
- 震災を契機に、この災害からの復旧・復興への貢献や今後の災害対策に活かすことを目的として、調査・研究補助事業の公募を行い、6件の事業を選定している。
- 被災地でのボランティア活動を計画している学生に対して、現地状況把握や安全確保、保険への加入等のアドバイスをを行っている。
- 被災した学生に対し、入学料、授業料、寄宿料の免除等の経済的支援を行っている。